

フィリピン大学における国際大会のご案内

国際 P2M 会長 小原重信

国際 P 2 M 学会は、第 5 回国際大会を 2017 年 3 月 23 日—24 日フィリピン大学 (University of the Philippines: 通称 UP) と共催いたします。場所はセブ島にある UP Cebu で実施について合意いたしました。6 月初旬には公示いたします。会員の皆様の投稿を期待いたします。

1. 国際会議テーマ

下記は本大会の有カスポンサーとなる FIST 吉田邦夫理事長、学会名誉会員が提示された国際会議のテーマと趣旨ですので、英文で事前にご案内いたします。

主題- The role of Program & Project Management under Waging Cut-Throat Competition in Global Markets-

副題- Exploring the New Approach in Asian Way of Leading Innovation

An economic growth rate is the total of 3 elements: labor power growth rate, capital stock growth rate, and the rate of technical progress. While almost all the companies are relocating overseas and aged society is rapid progress, only technological advancement can be expected to grow in Japan. Even the Philippines should prepare for the unavoidably coming time of decrease in working population. It is really essential to create something new economically and technically for vitalizing enterprises of both

countries. The Philippines also must improve the infrastructures such as transportation and water services. Japanese Government has a strong desire to cooperate with Asian emerging countries in these businesses. While undertaking cut-throat competition, a number of problems have appeared at the global level in the field of energy, natural resources and environment. These problems also should be solved in cooperation with several countries.

国際大会への参加

大会開催の方針として、英語による発表と交流、体験を奨励する。発表は 20 分程度で論文形式が好ましいがパワーポイントでも受け付ける。参考に投稿分野も示す。

- Japanese P2M: Innovation, Development, Improvement (Kaizen)
- Project Management
- The International Partnership Collaboration
- Community Revitalization
- Business Reforms Linked to Strategy
- Knowledge-based Development Strategy
- New Value-Creating Activity
- Building of Infrastructures
- Education and Training Programs

2. 大会投稿の予定

Important dates:

- Submission abstract:
January 16, 2017 Monday
- Notifications of acceptance:
February 13, 2017 Monday
- Deadline of registration:
February 20, 2017 Monday
- Conference date:
March 23-24, 2017

3. 国際会議の推進と主な目的

平成 27 年に韓国アジア 4 カ国 ASCON 国際会議（革新的エネルギー、環境問題、化学工学）に P2M セッション参加を初回に実現して以来、平成 27 年にベトナムのホーチミン大学との共催、千葉工業大学（津田沼キャンパス）、28 年 11 月の ASCON 横浜国際会議（200 名参加予定）に引き続く、第 5 回の開催企画となります。今回の国際会議開催の主な目的は次の三点です。さらに具体的にご関心のある皆様は別紙の「ロジックモデル」をご参照ください。

① アジア・パシフィック国際化拠点の構築

政治経済と学術協力におけるグローバル化とオープンイノベーションは急速に進展しており、本学会もアジア・パシフィックにおける国際会議の共催を戦略方針として推進しております。本国際会議は、英語圏における有力な「P2M 研究、普及の有力な国際化交流拠点」の構築にあります。

② フィリピン大学との人材交流・情報のネットワーク・サービスの提供

フィリピン大学は、1908 年創設された国立総合大学であり、教授 4000 人、学生数 53000 人を誇る日本の東京大学に匹敵すると国立総合大学の名門です。本校はマニラ郊外に Diliman を中核センターに 7 つ構成大学とキャンパスを保有しており、多数の優秀な研究者、官僚、企業幹部を輩出しております。フィリピンと周辺国の有力な「人材交流・情報のネットワーク・サービスの提供」を目的としております。

③ 社会問題、開発事業、海外交流における場の提供と活きた参考文献

本国際会議は、日本と比国の若手研究者、企業の実践者の発表・参加を奨励しております。両国が直面する社会問題、環境・エネルギー、技術移転協力、企業改革成果に関するプロジェクトやプログラムなどの研究と実践の投稿は、編集する予定であり予稿集、ジャーナルに編集いたします。活きた参考文献や教材として役立ちます。

4. フィリピン開催と UP 交流のメリット

「なぜフィリピンで、来年度に開催するのでしょうか？」ご承知のように、フィリピンは ASEAN10 カ国の中で日本に近い海洋国家で政治経済、東洋的な価値観、地政学的な交流関係に大きなメリットがあり、欧米の学会や企業も UP との接触を積極的に行っています。

第1に UP は 1908 年創設された国立総合大学の名門であり、世界の大学や企業が連携を求めています。その理由はグローバル化の潮流におけるアジアの英語圏で、学会協働のチャンスを見逃できません。UP の規模は、教授 4000 人、学生数 53000 人を誇る日本の東大と言われております。本校はマニラ郊外に東京ドーム UP Diliman を中核に 7 つ構成大学とキャンパスを保有しています。

第2に 政治経済体制に共通観を持ちやすいパートナーに有望です。大統領制を採用していいいますが、民主主義が浸透しており市場経済を志向する経済立国です。そこで、政治経済視点でも強い補完関係を持つパートナーシップ視点で、興味深い価値創造型の研究テーマが内在しています。例えば、2015 年の比国の 1 人当たり名目 GDP2856 ドル、日本は 32,485 ドルであり 10 倍の開きがありますが、比国は 2000 年から 15 年間 3 倍に成長した実績があります。

第3に 社会と生活に東洋的な価値観を持ちながら、英語圏であり学会の国

際化の推進にメリットがあります。比国人口は 9840 万人 (2013 年) で 40 年間に 3 倍に増加して日本の人口減少とは対照的だが、地域に根差した相互扶助、義理人情、家族の連帯はフィリピンには根強く残っています。両国には過去 60 年間に JICA などを通じて ODA 事業を通じて友好関係を維持してきた実績があります。

第4に 地政学的な相互補完関係に学会には協働研究、会員企業にはビジネス情報と機会のメリットがあります。両国の「変革事業」(innovation)には UP との協働と交流により、人材育成など潜在力を開花できる機会を開拓できる余地は大きいと思います。例えば、日比両国は海洋国家ですが、一方で台風、地震、火山噴火、土砂被害などの防災は社会課題である。そして、貧国から脱却には漁業の安全操業、農業の高度化、国内の交通渋滞、環境・エネルギーなどのプロジェクト・プログラムマネジメントと人材育成が必須要件となる。比国の国民の大半はキリスト教であるが英語コミュニケーション、人間関係、異文化適応に学習すべき点も多い。

フィリピン大学と共催に関する戦略目的と意義:ロジックモデル				
戦略		想定事項		
(1) P2Mの研究と大学教育の国際化を推進する (2) アジア・パシフィック地域に有力大学と交流する (3) P2Mセミナーで日本標準の発信と研究機会を創る (4) 海外交流の人脈チャンネルを創り、有力情報を得る (5) P2Mセミナーにより国際教材を作成し普及手段とする (6) 若手研究者の国際人材を図り、接触機会を高める		(1) 基本方針、参加者、資金確保の目途が前提となる (2) 欧米が先行しており、共催合意できる人脈を活かす (3) アジア英語圏で小規模、短期活動により成果を挙げる (4) グローバル時代に人材と情報が持続手段となる (5) 拠点大学でグローバル・ローカル教材を策定する (6) 若手研究者のグローバル意識と機会を支援する		
資産・資源	活動(プロジェクト)	成果物	長期と短期の成果	インパクト
(1) 実績 (2) スポンサー (3) 論文 (4) チャンネル (5) 教材 (6) リーダー	(1) 仏大学、ASCON(韓国・ベトナム・千葉) (2) FIST、農工大、企業、人脈、資金、企画 (3) 29年度のUP国際大会実現の場 (4) ホーチミン大学とフィリピン大学 (5) フィリピンで発表能力と教材を作成 (6) 大学基盤を活かした体制づくり実験	(1) 国際実績 (2) 外部評価 (3) 英文報告 (4) 大学拠点 (5) 英語教材 (6) 人材育成	3年後 2大学を4大学に拡大 国際論文を2倍もする 5年後 英語版教材を4倍に 担当を4大学	3年後 国際会議年1回 国際会員を15名 5年後 欧米連携を実現 論文広報4倍に